

免許更新制の廃止について

(斎藤嘉隆)

今回の中教審への諮問、もちろんその結果の答申を受けて、最終的な目指す姿としてこの更新制度の廃止というのもあり得ると、こういうお考えでよろしいのでしょうか。

(萩生田文部学大臣)

この更新制度、キャリアアップじゃないですよ。十年目と二十年目で大体時期が集中しますから、取りたい講座が取れなくて、結局十年前に取ったのと同じようなものをもう一回取り直して学び直しをするということが、それが無駄だとは言いませんけれども、ちっともキャリアアップになっていない研修じゃないかという思いがございませぬ。したがって、これ先生方の現場での負担にもすごくなっているというふうに承知をしておりますし、研修制度を維持することと免許更新制とひも付けをすることというのはこれ少し冷静に考えてもいいんじゃないかなと私個人は思っているところでございませぬ。

免許更新制見直しの時期について

(斎藤嘉隆)

やはり教員が常に教育課題に敏感であって、いろんな意味で知識を得て、あるいは教育技術を高めて教壇にまた向かっていくというためには、私は教員免許更新制度である必要はないというように思っています。それに、もう一つ言うと、私は、受けたから言うわけじゃありません、そうするとちょっと受けた受講がどうだったんだという話になりますので。全てのこの更新講習が今の教育課題にマッチしていると思えないんですよ。しかもリモートが多いんですよ、これ。本当に正直言って無駄。

それに、いまだに免許更新の時期に気付かなくて、現場にいながら免許が失効してしまう、もうあしたから教壇に立てないという教員が毎年のように出ているんです、多くの県で。

こういった視点で私はできるだけ早い時期に、廃止なのか大規模な見直しなのか分かりませんが、何らかの手を打つべきだと思いますが、大臣、これは、なるべく早い時期にというふうに今申し上げましたけれども、イメージとしては、例えば来年度のある程度の時期にこの件について答申をいただいて、再来年度辺りに何らかの方策を打っていくべきというようなお考えが文科省内にもそれなりにあると、こういうことでよろしいのでしょうか。

(萩生田文部学大臣)

新しい令和の時代の教師像をしっかりと打ち立てていくためにも、できるだけ早くこの免許の更新制については結論を出していただきたい、スピード感を持って制度改革を進めていくことを是非諮問した委員の先生方と共有していきたいなど思っているところでございます。

教科担任制導入について

(斎藤嘉隆)

教科担任制導入に関わる最大の課題は、私はやっぱり人の配置だと思います。持ちこまが減るということは人が増えるということですから、人、人数が同じなのに授業時数が減るということは、これは理屈上あり得ないことなので、これやっぱり定数、ある程度の定数増が伴って初めて実現をする、それがこの教科担任だというように思いますけれども、この点についてはいかがでしょうか。

政府参考人（瀧本寛初等中等教育局長）

小学校高学年からの教科担任制の導入に向けまして、学校における働き方改革や専門性を持った教師の指導による授業の質の向上なども踏まえまして、既存の専科指導に係る加配定数を考慮し、必要となる教員定数を含め、専門的、技術的な検討を進めてまいりたいと考えております。

(斎藤嘉隆)

少人数学級進捗による定数増と今局長がおっしゃったいわゆる定数増というのは全く別、別物だと、こういうような考え方でいいか、この点だけ確認をさせてください。

(萩生田文部学大臣)

結果として学校現場には人を増やしていくということをしていかないと働き方改革になりませんから、三十五人学級になったので総数の定数が増えたんだからそれでやりくりしろという話とはこれ別の話だということをきっちり線を引いて前に進んでいきたいと思っています。